



# 2年学年だより

発行日:令和 5年 5月 31日(水)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

校長:遠藤 広樹 NO.2

## 横浜大空襲を知っていますか

副校長 山田 文映

今だ5月の下旬ではありますが、今年はずでに夏を思わせるような暑さがみられます。通用門の階段を上ったところに梅の木があるのですが、今年も梅の実が沢山実りました。暑さの中、広大な南高・南高附属中の敷地を毎日手入れしてくださっている技術員さんにはいつも頭が下がります。皆さんも熱中症等には気を付けてお過ごしただけたらと思います。改めまして、私は副校長の山田文映(やまだ ふみえ)と申します。今年度もどうぞよろしくお願い致します。昼休みになると生徒の皆さんはグラウンドに出て、大縄跳びやリレーのバトンパスなど、体育祭に向けて元気に練習を行っています。これまでいろいろな場面で制限をされていた学校生活にコロナ禍以前の日常が戻りつつあり、何よりも皆さんの笑顔が学校に活気をもたらしてくれます。それは本当に嬉しいことであり、かけがえのないことだと思います。

この季節になると横浜大空襲のことが頭をよぎります。今から78年前の1945年5月29日(火)、横浜の地にこれまでにない大きな空襲がありました。本校の学校図書館には横浜大空襲について書かれた本が何冊かありますが、その中に横浜大空襲を体験された方(現在81歳)の証言が載っていました。

とてもよく晴れた風の無い日だったそうです。そのうち南西の方から青い空を覆うような飛行機の大群が、耳をつんざくような轟音とともに近づいてきたそうです。午前9時20分ころ、横浜上空に姿を現した米軍のB29爆撃機編隊517機は約2時間ほどで横浜の中心地の南区・中区・西区の全域、そして磯子区・神奈川区・鶴見区の臨海部を爆撃しました。その方は当時わずか3歳だったそうですが、周りの人が「逃げろ、早くしろ」といっている声を今でも覚えていると書いてありました。防空壕にたどり着き、眼下を見下ろすと、火に包まれた自分の家が見えたそうです。想像しただけでも恐ろしいことだったでしょう。この空襲では31万人以上の方が被害にあい、約7,000人以上の方が亡くなったとも言われています。避難する間に家族や知人、同級生、同僚らと生き別れ、それが永遠の別れとなることも多かったそうです。いろいろな場面で悲しみが繰り返されたのだらうと、胸が張り裂けそうな思いがいたします。

横浜はすっかり生まれ変わり、新しいビルがあちこちに立ち並ぶ大都市となりました。横浜大空襲を体験された方もご高齢になり、直接お話を伺うことはなかなか難しいのですが、日常の生活の中で時々思い出して、平和について考え続けていくことは大切だと思います。また世界ではまだ命を奪われたり、住む場所を追われたり、十分な水や食べ物がなかったり、大切な人と一緒に生活することのできない人々がたくさんいます。どうしたら誰かを守ることができるのか、どうしたら争いを無くすることができるのか、周りのことを自分事として考えられる人が一人でも増えると良いと思います。

6月6日は体育祭です。生徒の皆さんの笑顔あふれる、かけがえのない一日となるよう祈っています。

### 【本校におけるセクシュアル・ハラスメント相談窓口】

〈生徒指導専任〉青木 裕介 先生

〈養護教諭〉池田紗和子 先生

○教育総合センターの一般教育相談も、セクシュアル・ハラスメント相談窓口として利用できます。

電話番号:045-671-3726 (月～金) 9:00～17:00 ※祝日・振替休日を除く

### 【本校のスクールカウンセラー】

長田 美香(おさだ みか)先生

生徒の皆さんの健康で充実した学校生活を応援するため、生徒・保護者の相談に応じています。

・相談時間は次のとおりです。(ただし、変更になる場合がありますので、事前に確認してください。)

月曜日(10:00～17:30) 水曜日(12:00～17:30)

・相談は原則として予約制ですので、相談時間内に直通電話で申し込むか、担任等にご連絡ください。

・相談場所:カウンセラー室(生徒会室となり) ※カウンセラー直通電話 045-822-2877

## 原爆先生の特別授業

5月27日(土)の土曜EGGでは、講師の池田先生をお招きして原爆先生の特別授業を行いました。講師の先生がお話する内容や雰囲気から、当時の様子を知ることができました。2年生全員が講師の方のお話真剣に向き合っている姿はとても立派でした。今日聞いた話を受け止めるだけでなく、今後の学習にどのように生かすことができるのか考えていくことも大切です。

以下、生徒たちの振り返りをいくつか載せました。振り返りの内容は一部抜粋しました。

写真は、講師の池田先生のお父さんである「池田義三さん」



### 1組

私はもともと、朝日新聞の戦争に関する記事をよく読んでいて、なんとなく知っているつもりでした。でも、今回の受講で、全く知らなかったなと感じた。新聞では、原爆投下の瞬間などのむごい表現はサラッと読んでしまえば済む。今日話を聞いたことで、投下されたときの衝撃、気持ち悪いをはるかに超えた描写など、戦争の本当の姿に目を背けず知ることができたと思う。「戦争は残酷」これは誰もが知っていることだが、本当はこんな一言でまとめられないくらい酷いことを知った。

私は、池田義三さんの「そんな生やさしいものではありません。」という言葉がぐさっと刺さった。この講演や新聞だけでも少し気持ち悪くなり、原爆資料館なんかには行けな思っていたのに、「きれいすぎる」んだと知り、本当に衝撃だった。やはり、実体験した人と同じくらい理解するのは難しい。でも、決して忘れずに、近い理解をすることで平和の尊さを胸に刻んでおきたい。

### 2組

私の中で、特に印象深く残った言葉は「きれいすぎる」です。写真を見て、思わず目を背けてしまうような風ぼうをした人形が「きれいすぎる」ということに驚いたし、これ以上皮膚がただれているモノは、どんなものだったのか想像できませんでした。

今の私にできることは、国に訴えかけることではなく、今日教えていただいた原爆の威力、影響について自分の口で原爆について知らない人に伝えることだと思います。周囲の環境や心、身体までを焼き尽くしてしまう原爆の影響を知らない人が減れば、二度目を許さない態勢になっていくと考えました。

### 3組

自分が想像していたよりも重たい話だった。被爆者本人である池田さんの手記、言葉だから、よりリアルで生々しく、聞いているこっちも苦しくなった。しかし、最後の映像で池田さんが言っていたように、言葉やモノで語れるような単純なものではない。だから、数少ない爆撃で残ったもの、人々を大切に、戦争などを知らない現代人に原爆(戦争)の恐ろしさを知ってもらう必要があるのだと思った。

日本は戦争をしないと宣言しているが、今それが改められてしまう可能性があるかとニュースでよく聞いている。最初は、確かに何の武器も持っていなかったら、いざとなったら守れないいいのかもしれないと思った自分がいた。だが今回の講演で絶対によくないと気持ちが変わった。憲法を改正しようとしている人達に、この講演を聞いてほしい。そして、それでも武器に手を出すかもう一度考えてもらいたい。

### 4組

事前に心の準備はしておいてと言われていたが、想像よりも遥かにリアルだった。原爆投下までの流れが詳しく説明され、多くの資料があったため、内容の理解がしやすかった。

私の祖父は広島に住んでおり、長期休みのときは帰省しているのだが、まだ原爆ドームや原爆資料館に行ったことがない。だから、機会があれば行ってみたい。義三さんが話している動画の途中、昔を思い出したのか口が止まってしまったときがあった。その時、私も義三さんの気持ちを考えたら悲しくなった。

## 全校生徒が揃って、生徒総会を開催！

5月9日（火）7校時に、中高合同で生徒総会が行われました。コロナ禍になってからは、中高が揃った対面の生徒総会は実施できていませんでしたが、今年からは全員がアリーナに集まって開催することができました。生徒総会では、中学3年生の委員長が各委員会の年間計画や予算について説明しました。その後、中高それぞれに分かれて、意見交換会を行いました。今年度のテーマは「コミュニケーションがとりづらい場面・原因と解決策」でした。3学年の生徒が学年を越えて交流し、テーマについて自分の意見を発表し合い、交流を深めました。2年生は、1年生と3年生の橋渡しの役を買って出る人もいて、少しずつ先輩らしい姿が見られるようになりました。

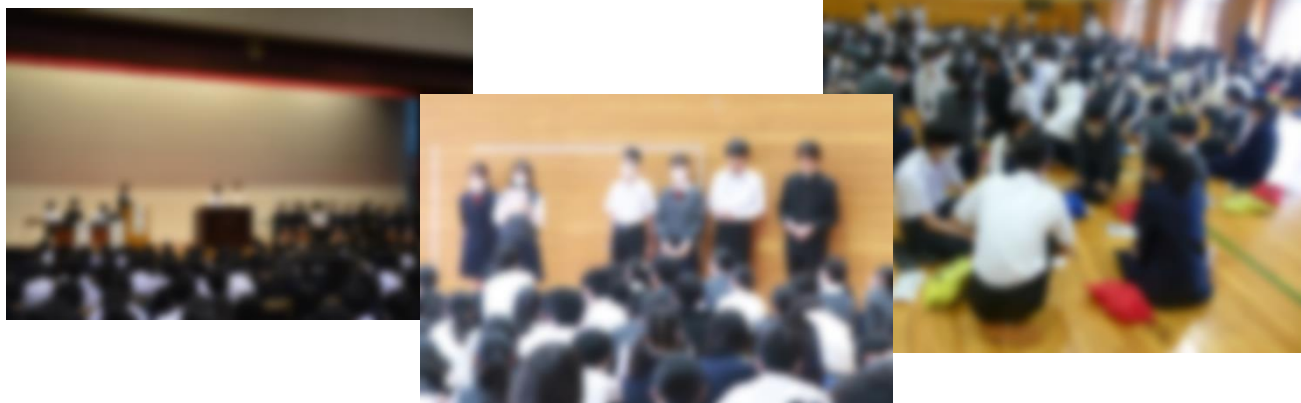
主催した生徒会本部役員の人から、振り返りの感想です。

### 2年1組 ■■■ さん

生徒総会や意見交換会についての情報伝達が遅れたこともありましたが、全校生徒の皆さんが上手にコミュするための解決策をしっかりと話せたと思います。話し合ったことをもとに、2年生の横のつながりだけでなく、1，3年生、あるいは高校生や大人ともたくさんコミュって欲しいと思います。3学期の生徒総会は、3年生が卒業し、2年生が中心となって運営することになります。その時は、2年生161人の力を合わせて頑張っていきましょう。

### 2年4組 ■■■ さん

今回の生徒総会と意見交換会を通して、より細かく当日のことを考えて準備することの大切さを知りました。今年度の意見交換会は昨年と異なり、縦割りクラスでグループを作り、話し合ってもらった形式でした。そのため、直前まではっきりとしたイメージがつかめず、話し合うまでに多くの時間を要してしまいました。次の生徒総会では、生徒会本部はどのタイミングで、どのようにサポートすれば良いかを具体的に考え、臨めるようにしたいです。意見交換会間近での多くの変更点に応じてくれた学級委員さんをはじめ、充実した意見交換会へのご協力ありがとうございました。



みちをのぼやき「応援する人が、応援される人で人生を楽しめる人なんだろうなあ」

お昼休みの体育祭の練習が熱を帯びてきた今日この頃。グラウンドの各所で、一生懸命練習に励んだり、作戦会議をしたりしているのを見てとても嬉しい気持ちになりました。行事で大事なものは持てる力をフル活用して全力で頑張り、それを楽しめる気持ちです。そしてその「頑張り」とか「楽しもう」とする気持ちは、周りの人の応援から生まれてくるものです。だから行事で大事なものは応援し合うことだと思います。本番当日も「全力で頑張るカッコ良い姿」と「お互いに応援し合う姿」を保護者の方々に、クラスメイトや学年の仲間に、先生方に、後輩や先輩に見せてほしいと思います。ぜひともみんなで魅力あふれる1日にしていましょね。